

合田三鬼堂（客員）

谿聲先生から、まだ人数が少ないので頭数にといわれ、東北大村上鬼城句会に参加させていたでいて、もう四年。いまでは同人も増え、私の居場所はないのだが、居心地がよいので、いまだ同席している。谿聲先生が病にたおれられてから、先生の復帰の日を待って、皆で会を守っている。優秀な同人たちである。この句会、谿聲先生の指導を受ける機会が多いので、私は兼題に実験的な句を出させてもらった。幸い、先生からいくつか評価して戴けたのだが、如雨君からこれがアンタの句と一覽表をいただき、妻に見せたら、素直じゃないの苦言一言。拙句かつ意味不明句につき注釈付きでご披露させていたたく。

新年

若宮大路から人の波。はぐれた仲間を鶴岡八幡宮の休憩所で待つ。

静の舞このあたりかと初詣

正月飾りの歌舞伎座。正月は客も華やかである。

破魔矢手に最負見ている棧敷かな

春

浜離宮庭園。ここも小さいが梅園がある。

浜離宮梅に誘われ都鳥

踏絵は古い季語。信者の心の葛藤を想い。

絵踏みして心閉ざせし遊女かな

夏

桐の花のよい香りが山いちめんに漂うという。妻の故郷の景色。

みちのく of 山澄みわたり桐の花

根岸・笹の雪にて

打ち水や豆腐献上の老舗かな

秋

浅草寺の秋。今土焼は窯元が一軒残っている。

奥山の紅葉に今戸の招き猫

市ヶ谷台、江戸時代、浄瑠璃坂の仇討ちというのがあって。

鬼芒浄瑠璃坂の死闘跡

冬

東銀座・いわて銀河プラザ。三陸の魚など出店をだす。干し鮭を浜干しという。売り子も三陸の人なれば、尚のこと美味に感ず。

乾鮭に北の風みる銀座かな

国立劇場で三ヶ月かけて元禄忠臣蔵の通し上演があり、真山青果の時代への想いが伝わってくる。

元禄の科白悲しき冬芝居